

事故防止及び 事故発生時対応 マニュアル

み

ま

も

い

睡眠中

水遊び中

食事中等



社会福祉法人 芦屋あゆみ会

あゆみ SEIDO 保育園

はじめに

この「み・ま・も・り」では

- ★ 事故予防のためには何が必要か
- ★ 具体的には何をすればいいのか
- ★ 事故が起きてしまったらどうすればいいのか 等

重大事故*が発生しやすい場面（睡眠中、プール活動・水遊び中、食事中等）や緊急時の対応をチェックポイントで示しています。

※ 重大事故とは・・・死亡事故、意識不明等の重篤な事故

一つひとつチェックすることで、基本的な安全確認ができるようになっていきます。
安全で安心な保育を行い、大切な『こどもの命を守る』ために、ぜひご活用ください。

目次

- **み**んなで取り組む事故予防 ～こどもの命を守るために～ P 1～3
- **ま**ず確認！睡眠中も保育中 ～睡眠時安全チェックポイント～ P 4・5
- **も**ちろん配置！水遊びには監視役
～プール活動・水遊び安全チェックポイント～ P 6・7
- **い**スクを減らす！いつも観察 誤嚥予防
～誤嚥・誤飲・窒息事故防止チェックポイント～ P 8・9
- 事故発生時の対応 P 10～13



みんなで取り組む事故予防

～こどもの命を守るために～

事故発生時、
どう対応するか 想像できますか？

いつもならできることが
とっさにできない 可能性があります



早期発見 が

こどもの命を助けることにつながります



こどもを **見守り**、異変に気づく

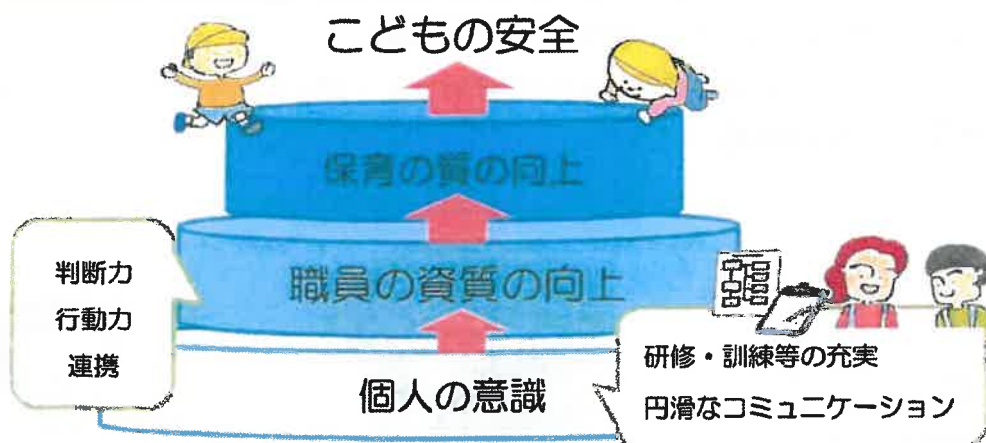


あなたの **気づき** がこどもの **命を守ります**

あの時こうしておけば・・・という思いをしないように

今できることを考えましょう

こどもが安心できる環境づくりには
職員一人一人の意識が大切です

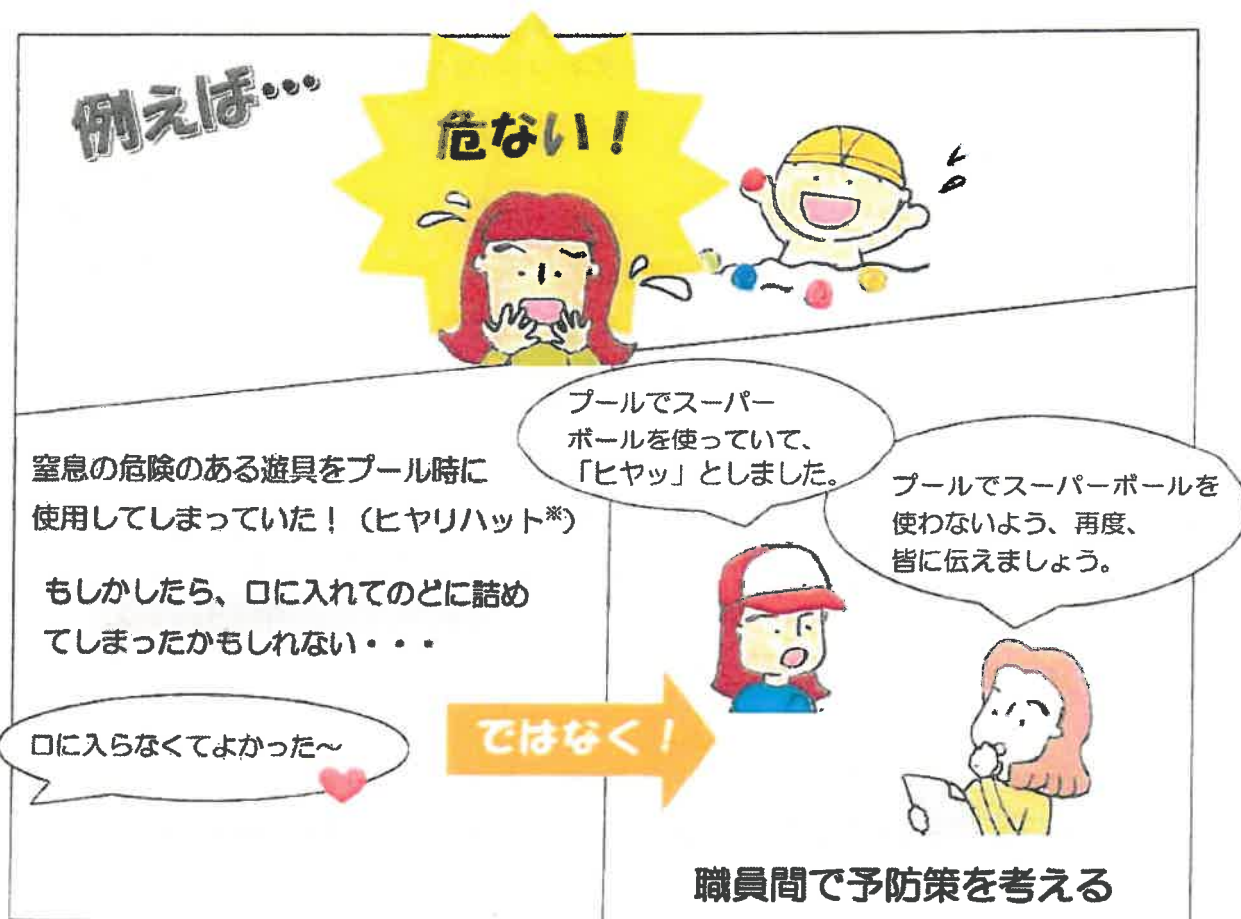


「誰かが見てくれていると思っていた」ではなく
声を掛け合い、常にこどもの動きを把握しましょう



一方で、

命に関わる危険なリスクも潜んでいます



※ ヒヤリハットとは、事故になる可能性があった「ヒヤリ」「ハッ」としたできごと

ヒヤリ

事故

ハッ

ヒヤリ

「ヒヤッ」とした経験を
職員間で共有することは
事故予防につながります

チェックポイントを確認し、事故を防ぎましょう



重大事故が発生しやすい場面のチェックポイントをまとめました
それぞれの場面に合わせた危機管理を行い、事故を防ぎましょう

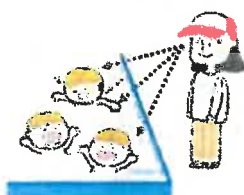
睡眠中

睡眠時安全チェック
ポイント (P 4・5)



水遊び中

プール活動・水遊び安全
チェックポイント (P 6・7)



食事中等

誤嚥・誤飲・窒息事故防止
チェックポイント (P 8・9)



万が一、事故が起きてしまった場合

「事故発生時の対応 (P10~13)」に従い、迅速に対応する



そのためには事前にシミュレーション（状況に応じた役割分担の訓練）
を行っておくことが必要です！

職員間で事故予防や発生時の対応
について共通認識を持ちましょう



まず確認！ 睡眠中も保育中

睡眠時安全チェックポイント



睡眠時の安全確保

睡眠中が最も突然死等の危険性が高い！

『自園でも起こりうる』
かも...

「こどもの安全を最優先とする」意識の徹底



- ・睡眠中も保育である
- ・睡眠中のリスクの共有
うつぶせ寝・窒息・預かり初期のリスク 等

- ・見守り(観察・記録)に
専念できる体制づくり
- ・緊急体制の整備
 - ↓ 心肺蘇生法・AED の操作研修の実施
 - ↓ シミュレーション研修(状況に応じた役割分担の訓練)の実施

チェックポイント



1 入園時の確認

- ☐ 入園児の生育歴等を把握する
- ☐ 配慮事項等がある場合、全職員で情報を共有する
- ☐ SIDS 対策普及啓発用ポスター(厚生労働省)を掲示したり、リーフレットを配付する
- ☐ こどもの健康状態等の情報を日々保護者と共有する(特に預かり初期は要注意)
- ☐ こどもの状況に応じた慣らし保育の必要性を保護者に説明し、理解を得る



チェックポイント



2 睡眠中の観察

ー 特に、預かり初期は注意深い見守いを！ ー

- ☐ 0・1 歳児はうつぶせ寝を見つけたら、仰向けにする
 - ☐ 0 歳児は5分毎
1 歳児以上は10分毎 } に観察する
- | 項目 |
|---------------------|
| ・名前の確認・顔色・唇の色 |
| ・呼吸状態の有無(呼吸音・胸の動き) |
| ・呼吸の様子(咳・ゼーゼー・鼻づまり) |
| ・熱感(体に触れて体温・発汗等) |
| ・体位 |
- ☐ その都度、睡眠時観察表に記録する



カーテンは直射日光や寒さ防止等、必要な場合を除いて、基本的には明るさの確保のため開けておく



- ☐ 敷布団は固めのものか
- ☐ 掛け布団は軽いものか
- ☐ コットの上のマット等は固定されているか
- ☐ 枕は使用していないか
- ☐ 布団やコットは観察しやすく並んでいるか
- ☐ 室内の照明は顔色等が観察できる明るさか

- ☐ 適宜換気を行っているか



- ☐ 体調等いつもと違う様子はないか
- ☐ 水分補給はできているか
- ☐ 口の中に何も入っていないか

- ☐ よだれかけは、はずしているか
- ☐ 周囲に「ぬいぐるみ」「おもちゃ」「タオル」「コード等のヒモ状のもの」はないか
- ☐ おもちゃ等を持っていないか
- ☐ すき間に顔が埋まらないよう布団のすき間をあけている、もしくはすき間なくつめているか



- ☐ 部屋は暖めすぎではないか

- ☐ 寝かしつける時から仰向けにしているか

〈温度・湿度の目安〉

	温度	湿度
冬	20～23℃	約 60%
夏	26～28℃	約 60%

- 室温湿度計は子どもが生活する高さに設置する（安全に留意しながら）
- 冷房は床面の温度が2～3℃低い場合があるので、睡眠時は留意する



睡眠中は床暖房やホットカーペットを使用しない（暖めすぎの防止）

もちろん配置！ 水遊びには監視役

プール活動・水遊び安全チェックポイント



安全対策の確立



監視体制の確立

監視者が監視に専念できる体制作り



緊急体制の確保

心肺蘇生法・AED 操作研修及びシミュレーション研修の実施（状況に応じた役割分担の訓練）



乳幼児の特性とリスク

10 cmの深さでも溺れることがある



★安全を最優先に考え、十分な監視体制が確保できない場合は、プール活動の中止も選択肢とする

こどもの安全が最優先

監視者とは

監視体制の空白が生じないように専ら監視を行う者とプール指導者を分けて配置する



監視者はプールサイドのこどもたちと遊んだり、プール指導者の補助をしたりせず、**監視に専念する者**

「監視者」の目印等を定める



役割

- プール全域をくまなく監視する
- プールに参加しているこどもの人数を把握し、確認を適宜行う
- 動かないこどもや不自然な動きをしているこどもを見つける → 静かに溺れることが多い
- 特定のこどもに視線を固定せず、定期的に視線を動かしながら全体を監視する
異常かどうかの見極めは、顔（特に目）を見る
- 持ち場を離れる時は、代わりの職員を配置する

チェックポイント



1

事前管理

- 慢性疾患等の配慮を必要とするこどもへの対応の確認
- 当日プール活動ができないこどもへの対応の確認
- 排泄が自立していないこどもへの対応の確認
- プールに入る人数の確認（人数を考慮しているか）



チェックポイント



2

活動実施の判断

- プール活動ができる環境か
 - ・雨天、強風、雷が鳴ったとき
 - ・光化学スモッグ警報発令のとき
 - ・PM2.5 の注意喚起のとき
 - ・暑さ（熱中症）指数が高いとき
 - ・土、砂等による汚染が著しいとき

一つでも当てはまる場合は**中止**とする



: 設備・環境



: こども



: 職員

チェックポイント

3

環境の整備



- ☐ 日よけ対策は行っているか
- ☐ プールの破損・亀裂はないか
- ☐ 石やガラス等、危険物はないか
- ☐ プールサイドは滑りやすくなっていないか
- ☐ プールの清掃と整理は行ったか
- ☐ プライバシーへの配慮は行っているか
- ☐ 監視場所に死角はないか
- ☐ 心肺蘇生法・AED 操作や緊急時対応のフローチャートをプール付近で確認できるか (P10~13 参照)
- ☐ 救急用具 (応急手当セット、毛布、笛等) の確認は行ったか

チェックポイント

4

活動前の確認



- ☐ プール環境は適切か
(気温 26℃以上・水温 27℃以上)
- ☐ 水深は年齢に応じて調整できているか
- ☐ こどもへの安全指導を行ったか
- ☐ 薬の預かりはないか
- ☐ 体温はどうか
- ☐ 顔色・機嫌はどうか
- ☐ 目や二・充血・鼻水・発疹等はないか
- ☐ 傷はないか (あれば状態はどうか)
- ☐ 便の状態はどうか
- ☐ 水分補給は適切に行ったか
- ☐ 帽子を着用しているか
- ☐ 準備体操を行ったか
- ☐ シャワーで適切に体を洗ったか
- ☐ おしりに排泄物が残っていないか
- ☐ 窒息の危険があるおもちゃはないか
- ☐ 職員の健康状態はどうか



チェックポイント

5

準備物の用意



- ☐ 気温計
- ☐ 水温計
- ☐ プール管理日誌
- ☐ 時計
- ☐ 救急用具 (応急手当セット、毛布、笛等)
- ☐ 拡声器・携帯電話 (緊急時に応援を呼ぶ)

チェックポイント

6

活動中の確認



- ☐ こどもの人数を把握できているか
- ☐ 人数を監視者に伝えたか
- ☐ 健康状態 (顔色や身体の様子) はどうか
- ☐ 監視者はプール全域をくまなく監視しているか

チェックポイント

7

活動後の確認



- ☐ ケガはないか
- ☐ 健康状態はどうか
- ☐ シャワーで体を洗ったか
- ☐ うがいをしたか
- ☐ 水分補給をしたか



- ☐ 保育室の室温は適切か
- ☐ 速やかにプールの水を排水し、鍵を閉め (カバーをかけ) たか
- ☐ プール管理日誌に記録をしたか



スクを減らす！ いつも観察 誤嚥予防

誤嚥・誤飲・窒息事故防止チェックポイント



食 事



チェックポイント

1

環境

- ☐ 食器・食具は適切か
- ☐ 机・椅子の高さは適切か
- ☐ 慌てて配膳していないか
(誤配膳防止を含む)

チェックポイント

2

食品の形態

- ☐ 大きさ・形状・温度・量・粘着度等は適切か
- ☐ 個々に応じたひと口の量・大きさに調整しているか

チェックポイント

3

食事時間

- ☐ ゆったりとした保育の流れとなるよう工夫しているか
- ☐ 食事前に水分を摂ったか
- ☐ 詰め込まないように指導できているか
- ☐ 食べるスピードが速すぎないか
- ☐ よく噛むよう指導できているか
- ☐ 「笑う」「泣く」が起きた時には詰まらないかどうかを観察できているか
- ☐ 眠くなっているときに無理に口の中に入れていないか
- ☐ 食べ終わりに口の中が空になっていることを確認したか

食事以外(保育時間中)

チェックポイント

- ☐ 誤嚥・誤飲・窒息につながるものを持ち込んだり、身につけていないか
(家庭や園外から、おもちゃ、小石や木の実等の自然物、菓子・雑貨、フード付き上着等を持参していないか)
- ☐ 発達に応じたおもちゃを選択しているか(素材や大きさなど)
- ☐ ボタンや髪留め、飾りやアクセサリ、ビニール袋等が身近にないか
- ☐ こどもの手の届く場所に危険なものがないか(口に入るものなど)
- ☐ 薬品、洗剤、肥料の管理が徹底できているか
- ☐ 菜園活動中や散歩中等に、作物や木の実等を口に入れていないか
- ☐ 異年齢が一緒に遊ぶ場合は、状況に応じたおもちゃを選択しているか、または、コーナーに分かれて遊んでいるか

確認しましょう、

チャイルドマウス



この円形・楕円形の中に入るものはこどもの口に入ります

誤飲物を縦、横、斜めにして楕円形に入りそうなものは、こどもが飲み込んだり、窒息の危険があります

※乳児クラスについては、身の回りに口に入りそうなものはないかチェックしてみましょう

事故発生時の対応（救命処置が必要な場合）



初期対応

応急処置ができるよう場所を空け、
他の園児をその場から離す

他児の保育

（担当： ）

チェックポイント

1 反応の確認

☐ 反応はあるか

☐ 反応がない

☐ 反応があるが、いつもの反応でない

チェックポイント

3 呼吸の確認

☐ 呼吸はしているか

呼吸がない

呼吸がある

心肺蘇生を行う
AED 装着

様子観察



※こどもの側から離れない！

呼吸をしているか等、こどもから
目を離さず確認

心肺蘇生・応急処置

（担当： ）

P12 を見る！

こどもの観察・記録

（担当： ）

注意！

溺れかけたり、窒息しかけた場合は、元気そうに見えても、できるだけ早期に受診する

チェックポイント ☒

P13 を見る！

2

救急車の手配

119 番通報（担当： ）



チェックポイント ☒

4

連絡

- ☐ 保護者へ連絡
- ☐ 芦屋市ほいく課へ連絡

連絡係

（担当： ）

AED 設置場所

（ ）

救命処置

発見者！直ちに！その場で！対応開始！

反応を見る！

肩や背中をたたきながら大声で呼びかけても

何らかの応答やしぐさがなければ「反応なし」とみなす



周りに知らせる！119番通報！※笛等で応援要請！人を集める！

呼吸を見る！

気道の確保

呼吸なし



呼吸をしていない時、即座にその場で人工呼吸開始！

反応がなく、呼吸がないか、死戦期呼吸（「口をパクパク」「あえぐような」呼吸）が認められる場合は心停止と判断、心肺蘇生（CPR）の適応と判断し、ただちに人工呼吸・胸骨圧迫を開始する

※睡眠中は突然死が考えられるため、すばやく見極め緊急度を判断！口腔内の確認！

心肺蘇生（CPR）

（胸骨圧迫30回：2回人工呼吸）
強く・早く・絶え間なく！中断しないこと！

呼吸が重要！

胸骨圧迫！

1歳以上



- 片手の付け根で
- 乳首を結ぶ線の真ん中
- 胸の厚さ約1/3くぼむまで
- 少なくとも100~120回/分

1歳以上は口対口人工呼吸（鼻はつまむ）

1歳未満



- 中指・薬指の2本で
- 乳頭を結ぶ線の少し下
- 胸の厚さ約1/3くぼむまで
- 少なくとも100~120回/分

1歳未満は口対口鼻人工呼吸（口鼻一緒に）、
胸が軽く膨らむ程度の量で行う

AED 装着

心肺蘇生は救急隊に引き継ぐまで続ける！

電極パッド装着

AEDのメッセージに従う

必要あり

「必要」と音声 flowed たら音声に従い電気ショックボタンを押す
その後、心肺蘇生を再開する

必要なし

「不要」と音声 flowed たら、
ただちに、心肺蘇生を再開する

電極パッドを貼り付けるときもできるだけ胸骨圧迫を継続する

※職員はAEDがどこに設置されているのかを把握しておく

※ 各施設の名称、住所等、具体的な状況を入れましょう。

《119番通報》

【例】

種 類・・・「救急です」

場 所・・・「住所は、芦屋市精道町12-14、
あゆみSEIDO保育園です」

「(目標物) 県立芦屋高校の西側
100mほどです」

通報者・・・「私は、あゆみSEIDO保育園の、
〇〇です 電話番号は 0797
-22-2678 です」

被害状況・・・「〇歳児が、〇〇な状態です」